



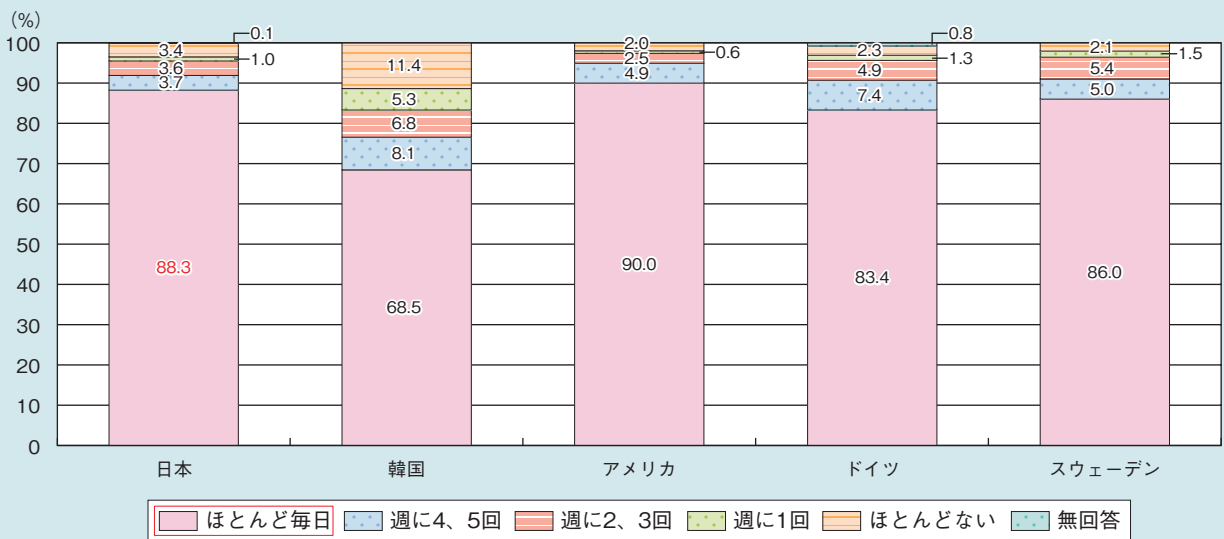


## 2 国際比較調査で見る日本の高齢者の特徴

### ○国際比較調査の結果から見た日本の高齢者の特徴

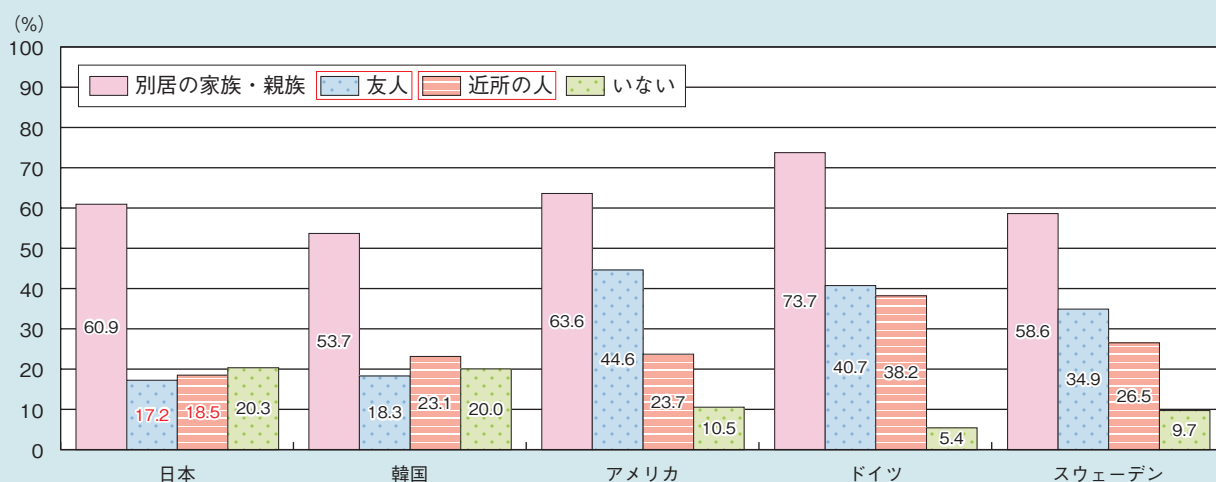
- ・60歳以上の人の日常における「会話の頻度」を見ると、日本は、「ほとんど毎日」会話している人の割合が5か国（日本、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデン）中アメリカに次いで高い（図1-3-4）。
- ・「同居の家族以外で困ったときに頼れる人」として「友人」、「近所の人」を挙げる人の割合は5か国中最も低い（図1-3-5）。
- ・「家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人」がいない人の割合は、韓国に次いで高い。また、そのような友人がいる場合でも、「同性の友人のみ」の割合が高い（図1-3-6）。
- ・日本の高齢者は家族・親族という血縁関係を中心に人間関係を構築しており、近所の人や友人との関係がやや希薄である様子がうかがえる。

図1-3-4 〈会話の頻度〉あなたは普段どの程度、人（同居の家族を含む）と話しますか？（電話やEメールを含む）



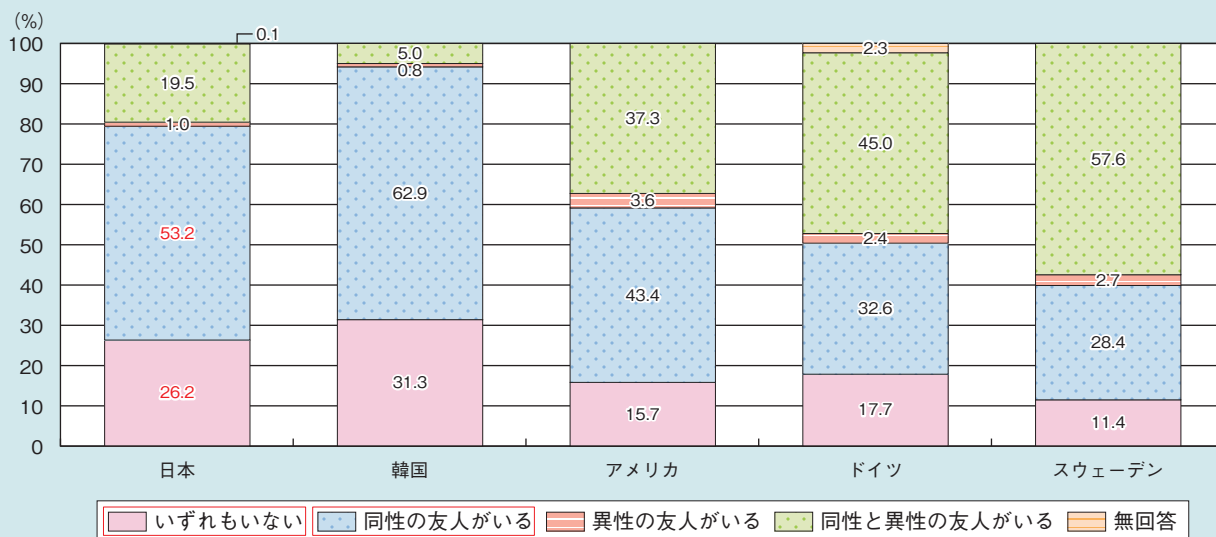
資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
 （注）調査対象は、60歳以上の男女

図1-3-5 同居の家族以外で困ったときに頼れる人の有無（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
 (注) 調査対象は、60歳以上の男女

図1-3-6 家族以外で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人の有無



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）  
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

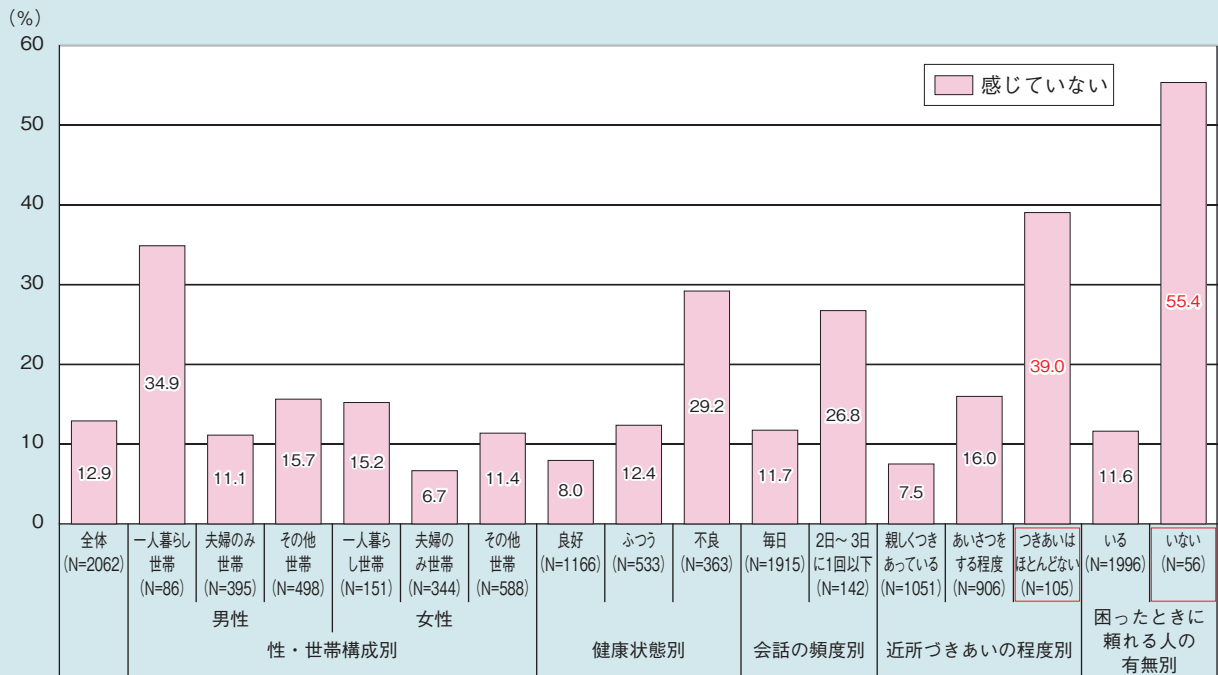
### 3 高齢者の社会的孤立を防止し、高齢者自身を「地域」の支え手に

#### (1) 高齢者の社会的孤立がもたらす問題点

##### ア 生きがいの低下

- ・ 誰とも会話をしない、近所づきあいをしない、困ったときに頼る人がいないといった、社会から孤立した状況が長く続くと、生きがいを喪失したり、生活に不安を感じることもつながる。
- ・ 近所づきあいがほとんどない人、困ったときに頼れる人がいない人は、生きがいを感じていない割合が高い（図1-3-7）。

図1-3-7 生きがいを感じていない人の割合



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成22年)  
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

### イ 高齢者の消費者被害

・高齢者の消費者被害が深刻な問題となっているが、これには高齢者の孤立化が関係している可能性がある。被害を防ぐには、不安や悩みを話せたり、ちょっとした相談ごとができる場や人間関係をつくることが重要である。

### ウ 高齢者による犯罪

・犯罪を繰り返す高齢者には孤立化の傾向が認められる。前科・前歴や受刑歴などがある人ほど、初犯者に比べ、単身者が占める割合が高く、また、親族や親族以外の人との接触機会が少ない。つまり、孤立化を防ぐことは安全・安心な社会を築く上でも重要である。

### エ 孤立死

・東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成19(2007)年~21(2009)年まで3年続けて2,000人を超えている。また、単身の居住者が誰にも看取られることなく(独)都市再生機構の賃貸住宅内で死亡したケース(自殺や他殺を除く)は、21(2009)年度に665件、65歳以上に限ると472件となり、12(2000)年度に比べ全体で約3倍、65歳以上で約4倍に増加している(図1-3-8、図1-3-9)。